

給水管と配水管のお話

高度経済成長期に急ピッチで建設された大量インフラが、一斉に老朽化し始めていることに対して警鐘が鳴らされています。水道も同じですので、市は皆様のご協力をお願いしながら、計画的に施設更新をしています。

問合せ 水道施設課 ☎72・3135



市内で起きた漏水事故



老朽化の進んだポンプ

給水管は皆さんの財産です

ここ数年、給水管の老朽化により赤水（給水管内の赤さび）が出て困っているなどのお問い合わせがあります。ところで、給水管は誰が維持管理するものなのでしょうか？

図1に示すように市が管理する配水管の分岐部（サドル分水栓）から蛇口までの給水管は、皆さんの財産です。そのため、維持管理は皆さんにお願いしています。

上記のような給水管内での赤さびなど、困ったときには指定給水装置工事事業者（電話帳や下記市HPでご確認ください）へご相談してください。

☞ <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/soshiki/s-eigy/2971.html>

老朽化した配水管は市が更新

平成の初めから、花川南地区では配水管の漏水事故が多発しました。その修理のたびに断水が生じ、市民生活にも支障が出ていました。漏水事故の原因が配水管の老朽化であったことから、市では平成8年度から同24年度まで同地区の配水管の更新を進め、漏水事故は格段に減少しました。

市ではかつての花川南地区の漏水事故を教訓とし、老朽化による水道施設事故を未然に防止するため、平成22年度に「石狩市水道施設更新計画」を策定しました。

水道施設の老朽化は市が今、直面する大きな課題です。花川南地区以外でも、図2に示すように、過去に集中的に整備した花川北地区などの第1次更新グループ管路の老朽化が進んでおり、今後また一気に漏水事故が発生する可能性は否定できません。

また、老朽化は管路だけではなく、浄配水場のポンプや機械電気計装設備も同様に進行しています。

現在、市では計画に基づき施設の更新を進めていますが、計画策定から5年を経過したことより、本年度中にフォローアップ（見直し）を予定しています。このフォローアップを行うことで、現在の更新スピードが適切かどうか、さらにはより効果的な手法はないかなどを検討し、重大な事故の防止に努めていきます。

図1 水道の維持管理範囲

【マンションなど中高層ビルの貯水槽水道方式】

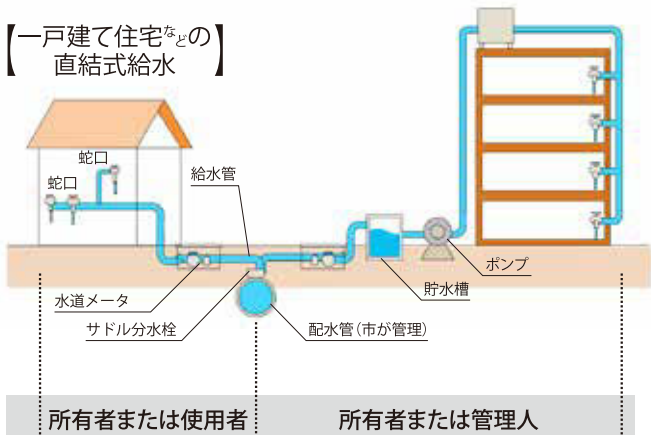
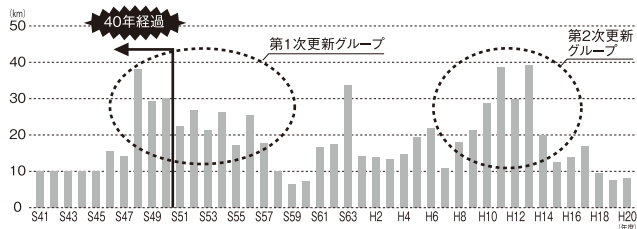


図2 配水管の年度別整備延長



いしかり砂丘の風資料館テーマ展
「海辺のおばけ? 石狩湾の蜃気楼」

石狩湾の蜃気楼をもっと知りたい方・実際に見たい方は、テーマ展をご覧ください!! (22ページ参照)

日程 4/29(水・祝)~6/29(月)

いしかり
博物誌
137

今年も出る? 海辺のおばけ、蜃気楼

日本では富山県魚津市が有名ですが、石狩湾沿岸でもときどき発生します。特に小樽市の中心部からは、高島岬や石狩湾新港が蜃気楼になって見えることが多く、高島の蜃気楼は昔から「高島おばけ」と呼ばれてきました。幕末、海上から高島岬を訪れた松浦武四郎も目撃し、記録に残しています。同じ石狩湾沿岸の石狩市では、近年まで観測記録はありませんでした。しかし2010年に観測・撮影に成功して以来、毎年数回、石

春から初夏。石狩市の海辺に、おばけの季節がやってきますーと言っても、幽霊や妖怪ではありません。蜃気楼のことです。冷たい空気と暖かい空気が層状に重なったとき、光の屈折によって、遠くの景色が実際より伸びて見えたり逆さまに見えたりすることがあります。これが蜃気楼です。特に、実景が上方に伸び上がる現象は「上位蜃気楼」と呼ばれ、地形や大気の状態などが限られた条件下でしか発生しない、珍しい現象とされています。

など、誰が見ても変な景色に気づくような大規模な蜃気楼が、4回も発生したのです。4月~6月のまだ海水が冷たい時期に、強い日差しで暖められた陸地からの暖気が静かに海上を覆う、という状態が例年より多く生じたことが原因のようです。蜃気楼は、冷たい海上の空気と、暖かい陸上の空気との出会いが生む、海辺ならではの自然現象。発生するかどうかはその日その日のちよつとした風向き次第ですが、毎

狩浜から上位蜃気楼の発生を確認しています。特に2014年は大規模な蜃気楼がこれまでにないほど多く見られました。蜃気楼といっても規模はいろいろで、小規模なものでは、通常の景色を知っている人が双眼鏡で見て初めて確認できる、という程度だったりします。ところが2014年は、小樽市の市街地にありもしない高層ビルが林立しているように見えたり、高島岬の沖に上下に細長い島が出現したように見える

石狩浜から観測した蜃気楼



日の天気予報にヒントは隠されています。風が弱く、気温がぐんと上がりそうな昼時、双眼鏡を持って海辺に出てみれば、「おばけ」に出会える可能性は高まりますよ。

(志賀健司)



2014年5月20日▶



志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。